秀明大学将棋部
創部 10 周年記念感謝祭企画
～棋士紹介～

今回、15 人の棋士について獲得したタイトルや経歴について紹介させていただきました。将棋は近年ニュース等で取り上げられる機会が増えたため、知っている棋士や今回初めて知る棋士がいると思います。最後までご覧いただけると幸いです。

① 藤井 聡太 三冠

＜通算成績＞
248 勝 46 敗

将棋を知らない方でも一度は名前を聞いたことがあるのではないでしょうか。藤井聡太三冠は 2002 年に愛知県にて生まれ 2016 年 9 月に 14 歳 2 カ月最年少の若さでプロ入りを果たしました。（それまでの最年少記録は加藤一二三氏の 14 歳 7 カ月。また、藤井三冠のプロデビュー戦の対局相手が加藤氏であり、この対局で藤井三冠が公式戦勝利の最年少記録を更新しました。）

プロ入り後は歴代最多となるデビューから公式戦 29 連勝を記録し、若くして「100 年に一度の天才」と呼ばれる等、マスコミから注目を浴びるようになった。藤井氏の強さとして挙げられるのが、人間には指せない手を打つということだと考えます。

② 羽生　善治 九段

＜通算成績＞
1485 勝 638 敗

1970 年に埼玉県で生まれた羽生九段は 1985 年に中学生でプロ棋士になります。1989 年に初タイトルである竜王を獲得すると、1996 年には当時の将棋界では初のすべてのタイトル（竜王・名人・王位・玉座・棋王・王将・棋聖）の独占を達成します。そして、2017 年には、永世 7 冠を達成しました。通算優勝回数 152 回、公式戦優勝回数 144 回、タイトル獲得 99 期、タイトル戦登場 136 回、同一タイトル戦 26 回連続登場、同一タイトル戦 26 回連続登場、同一タイトル獲得通算 24 期、一般棋戦優勝回数 45 回の記録は歴代 1 位と圧倒的な強さを誇ります。

そんな、羽生九段ですが対局時は寝癖が良く見られることで有名であり、ネット上では、寝癖を直しても対局中に頭を掻くため結局ボサボサになるためあえて直さないなど様々な説が上がっています。皆さんも羽生九段の対局を見る機会があったら是非見てはどうでしょうか？

③　加藤 一二三 九段（引退）

<通算成績>
1324 勝 1180 敗

1940 年に福岡県で生まれた加藤氏は、1954 年にプロ棋士になります。14 歳 7 カ月というのは藤井聡太三冠がプロに入るまで最年少記録であり、当時史上初の中学生棋士でもありました。そこから 77 歳で現役を引退するまでの約 63 年間プロとして活躍しました。

現役時には「神武以来の天才」や「１分将棋の神様」という異名を持つ将棋界のレジェンドで、居飛車党で棒銀と矢倉を 1 番得意としていた棋士でした。

加藤氏は「ひふみん」という愛称で親しまれており、引退後も様々なテレビ番組に出ていたことから、一度は見たことがある人もいるのではないでしょうか。また、現役の対局中に相手の後ろに回り盤面を見ていたことから、その行為を「ひふみんアイ」と呼ばれるようになります。

加藤氏のエピソードとして、加藤氏は精神集中のために雑音を嫌い、暖房の音ですら気が散るため、電気ストーブを対局中に用いていたと話があるほど集中力が高く、将棋の世界に入り込んでいました。これが将棋界のレジェンドと呼ばれる所以なのかもしれません。

④ 豊島　将之 二冠

<通算成績>
530 勝 247 敗

豊島九段は 1990 年に愛知県で生まれ、2007 年に平成生まれ初のプロ棋士となります。

豊島九段が将棋を始めたきっかけは 4 歳の頃、羽生世代（羽生九段と年齢が近い棋士）の棋士を追ったテレビ番組を見かけたことをきっかけに将棋をはじめ、小学 3 年の 9 月に 6 級で奨励会に入会し、史上最年少記録としてメディアに取り上げられました。奨励会入会以降は成績には波がありましたが、小 5 の 9 月までに 1 級に昇級するというスピード出世で、史上初の小学生プロ棋士の期待がかかったものの、初段昇段までに 1 年半を要してしまったため、小学生プロ棋士の誕生とはなりませんでしたが、三段昇段は中 2 の 4 月で史上最速記録を達成します。

豊島九段の凄さとして居飛車、振り飛車、相振り飛車すべてを指しこなすことが出来、また、攻め合いの将棋でも耐久戦も指すことが出来るため、「若き天才オールラウンダー」とも呼ばれるほど隙が無いのが特徴でもあります。

⑤ 斎藤　慎太郎 八段

＜通算成績＞
272 勝 137 敗

斎藤八段は 1993 年に奈良県で生まれ、羽生九段に関する漫画を読んだことがきっかけで、将棋並びに棋士に興味を持ち、2012 年にプロ入りをします。

斎藤八段は「好きを通り越して愛している」と公言する程の詰将棋愛好家であり、奨励会員時代から詰将棋解答選手権に参加し、第 6 回（2009 年）では 3 位・第 7 回で 5 位・第 8 回～第 9 回で連続優勝と、その手腕を発揮します。また、第 16 回(2019 年)詰将棋解答選手権の第 2 ラウンドにおいて、この大会で優勝した藤井聡太七段(当時)より 5 分早く解答したうえに出場者の中で唯一の満点を出し準優勝をするなど、詰将棋がいかに好きかをうかがうことが出来ます。

斎藤八段は、居飛車党でじっくりした将棋を好んでおり、持ち時間が長い棋戦で才能を発揮することが多いです。

⑥ 都成 竜馬 七段

<通算戦績>
161 勝 80 敗

都成七段は 1990 年に宮崎県で生まれます。竜馬という名前は将棋好きだったアマ初段の父が、将棋の駒にちなんで「竜馬」と命名したそうです（しかし、本人が好きな駒は香車だそうです）。そんな都成七段は兄と父が将棋をしているのを見て 4 歳で将棋を覚え、2000 年 9 月に 6 級で関西奨励会に入会しました。しかし、入会当初は成績が振るわず、5 級に昇級するまで 1 年 9 ヶ月、また 5 級から 4 級の昇級も 1 年 3 ヶ月費やしたものの、その後は調子を上げ、4 級から初段まではおよそ 2 年でかけ上がり。2016 年にプロ入りをしました。

都成七段は振り飛車党で中飛車を得意としていますが、一手損角換わりや相掛かり等の居飛車を指し新人戦を優勝しています。また、『都成流』と呼ばれる後手番の新戦法を編み出しました。

⑦ 糸谷 哲郎 八段

<通算成績>
422 勝 235 敗

糸谷八段は広島県で生まれ、1998 年に 9 月、6 級で奨励会に入会し、2006 年にプロ入りを果たしました。糸谷八段はプロ棋士になってから国公立大学に進学し、その後大学院まで進み修士号を取得することに加えて、大学院在学中に竜王を奪取するというプロ棋士では異例の経歴を持っています。糸谷八段は第 59 回（2009 年度）NHK 杯戦で、3 人の永世称号資格者（谷川浩司=十七世名人資格者、森内俊之=十八世名人資格者、渡辺明=永世竜王資格者）を破り、永世六冠の資格を持つ羽生善治名人と決勝で戦うことになりましたが、敗れて準優勝となりました。（翌年の第 60 回 NHK 杯戦も決勝まで進出するも羽生名人に敗れ準優勝となりました。）糸谷八段は早指しを得意としており、居飛車党で角換わりを得意戦法としています。

⑧ 森内　俊之 九段

<通算成績>
940 勝 594 敗

森内九段が将棋を始めたきっかけは、森内が小学校 3 年生の頃学校の休み時間にクラスメート内で流行していたルールが大雑把な将棋遊びに参加したというありふれたものでした。そして、このゲームに魅力を感じた彼は父親に手ほどきを受け、正式な将棋を指すようになりました。そして、家で将棋に熱中している森内の姿を見ていた彼の祖母は、あるとき、雑誌『将棋世界』を孫に渡しました。『将棋世界』との出会いをきっかけに、森内は将棋の新しい世界を知り、将棋にのめりこんでいきます。そして、1982 年に奨励会に入会し、1987 年にプロ入りを果たします。

プロ入り後は、第 61 期名人戦七番勝負において、名人位を羽生挑戦者に奪取されるも、第 16 期竜王戦七番勝負では羽生竜王から竜王位を奪取。第 53 期王将戦七番勝負においても、羽生王将を降し、王将位を奪取しました。さらには A 級順位戦史上初の 9 戦全勝を果たし、羽生名人への挑戦権を獲得。2003 年度将棋大賞で最優秀棋士賞を初受賞しました。そして、2004 年度の第 62 期名人戦七番勝負において、羽生名人に勝ち、名人位を奪取し、史上 7 人目 の三冠王（竜王・名人・王将）となり、最多冠保持者となりました。

⑨ 渡辺　明 二冠

<通算成績>
696 勝 354 敗

渡辺二冠は小学校 1 年生の時に、アマ五段の父に教えられ将棋を覚え、小学 2 年のころに初段となりました。1994 年、10 歳で奨励会を受験し、6 級で入会。奨励会入会試験の対局が互いに極端な早指しで 2 分で終わったことから、隣の対局はまだ駒を並べている途中だったという出来事がありました。

中学 3 年であった 2000 年 3 月、第 26 回三段リーグで 13 勝 5 敗の 1 位となり、同年 4 月に 15 歳で四段昇段しプロ入りしました。中学生でプロ入りを果たしたのは加藤一二三・谷川浩司・羽生善治に続く、史上 4 人目です。2004 年 12 月 28 日、森内竜王を下し名人とともに将棋界の二大タイトルの一つである竜王位を弱冠 20 歳で獲得しました。その後も圧倒的な強さを誇り、現在でもタイトルを保持するなど、今でも将棋ファンを魅了しています。

⑩ 谷川　浩司 九段

＜通算成績＞
1351 勝 893 敗

谷川九段が将棋を始めたきっかけは、5 歳の頃、5 つ年上の兄・俊昭氏との兄弟喧嘩が絶えなかったため、父が兄弟喧嘩を止めさせる目的で将棋盤と駒を買ってきて兄弟で将棋を指させたことから将棋と出会いました。小学 5 年の 4 月（1973 年）に、5 級で奨励会で指し始める。以降、順調に昇級・昇段を重ね、中学 2 年時代の 1976 年 12 月 20 日に四段に昇段してプロデビューしました。加藤一二三氏以来 2 人目の「中学生棋士」となったほか、中学 2 年以下でプロ入りした棋士は谷川が初めてでした。

プロ入り後は、全 7 タイトルを各 1 回以上獲得したことになり、また、大山康晴、中原誠氏、米長邦雄に次いで史上 4 人目の四冠王（竜王・棋聖・王位・王将）そして 1988 年度三冠（名人・王位・棋王）となりました。しかし、同年度の第 29 期王位戦と第 14 期棋王戦ともに敗れ、名人のみの一冠となってしまいますが、1989 年度には第 47 期名人戦で名人位を防衛し、さらに第 30 期王位戦では王位を奪還して二冠（名人・王位）に復帰しました。

⑪ 山﨑　隆之 八段

<通算成績>
652 勝 372 敗

1981 年に広島県で生まれた山崎八段は、1998 年 4 月のプロデビュー後、特に 3 年目以降から、一転して非常に高い勝率を挙げるようになり、通算勝率で羽生善治に次ぐ 2 番手を、木村一基、深浦康市らと長く争ってきていました。度々タイトル戦の予選の上位に進出し、王位戦では、第 42 期（2001 年）、および、第 45、46、48、49 期の挑戦者決定紅白リーグに入っていました。第 45 期（2004 年）では白組で優勝したが、紅組優勝の羽生善治との挑戦者決定戦で惜しくも敗れ、タイトル初挑戦を逃してしまいます。

その後、2000 年度第 31 回新人王戦で棋戦初優勝（当時 19 歳）を果たします。同棋戦での 10 代の優勝者は、森内俊之、羽生善治に次ぎ 3 人目の記録です。さらには、4 年後の第 35 回でも優勝します。

山﨑八段は基本的には居飛車党ですが、棋士デビュー直後は矢倉も好んで指していましたが勝ちにはあまり恵まれず、その後角換わり、相掛かりと得意戦法を変えています。

⑫ 先崎　学 九段

<通算成績>
685 勝 537 敗

先崎九段は小学校 5 年の秋に奨励会に入会。早熟な者が多い将棋界の中でも小学 5 年での入会はかなり早いほうで、しかも、6 級ではなく 5 級での入会でした。1987 年 10 月 19 日付けで四段（プロデビュー）し、その直後から頭角を現しました。第 1 期（1988 年度）竜王戦 6 組で優勝し、本戦トーナメントでは 2 回戦に進出（羽生善治に敗れる）。第 38 回（1988 年度）NHK 杯戦ではベスト 8（4 回戦）に進出しました（谷川浩司に敗れる）。

また、1990 年 10 月 8 日、通算 100 勝達成により初の昇段（四段→五段）。これは年間 30 勝を超えるハイペースでした。その後、第 40 回（1990 年度）には NHK 杯戦で優勝。準決勝で羽生善治前竜王を、決勝では南芳一棋王を破っての優勝でした。最初で最後の羽生との公式対局における勝利であり、全棋士参加棋戦での優勝です。

⑬ 永瀬　拓矢　王座

<通算成績>
413 勝 169 敗

永瀬王座は 9 歳の時に祖父から教えてもらったことが、将棋を始めたきっかけでした。2009 年 10 月 1 日付で四段に昇段しプロ入りを果たします。17 歳 0 か月でのプロ入りは、現行三段リーグ制度導入（1987 年）以降では、渡辺明（15 歳 11 か月）・屋敷伸之（16 歳 8 か月）・豊島将之（16 歳 11 か月）に次ぐ、当時 4 番目の年少記録でした。

プロ入り後、2011 年には公式戦 18 連勝を記録しました。この連勝の中には、第 61 回 NHK 杯戦の予選 3 局と、本戦 1 回戦（放送日は 6 月 5 日）での佐藤康光九段（永世棋聖資格保持者）から挙げた勝利が含まれています。デビューからしばらくは三間飛車を得意とする振り飛車党でしたが、2013 年頃から居飛車党に転向しました。振飛車党時代は、「有利になれば相手の駒をすべて取りにいく」ような、強烈な受け将棋で「大山康晴十五世名人の再来」と呼ばれました。

⑭ 佐藤　康光 九段

<通算成績>
1073 勝 662 敗

永世棋聖の資格保持者である佐藤九段は、6 歳で将棋を覚え、奨励会入会後、僅か 1 年弱で 2 級に昇級。その後 1987 年に 4 段に昇段しプロ入りを果たします。1993 年、六段のとき第 6 期竜王戦で挑戦者となります。当時の竜王は五冠王の羽生善治であったが羽生から竜王位を奪取し、初のタイトル獲得を果たしました。また、06 年度は、佐藤にとって大活躍の年となる。まず、第 77 期棋聖戦で防衛をすると、これで通算 5 期となり、規定により永世棋聖の資格を得ます。JT 将棋日本シリーズは決勝で郷田真隆を破り 2 度目の優勝。NHK 杯も決勝で森内俊之を破り優勝（3 度目の決勝進出にして初優勝）。史上初のタイトル戦 5 連続挑戦の記録を作り、森内俊之から棋王位を奪取しました。

⑮ 田中　寅彦 九段

<通算成績>
791 勝 773 敗

田中九段は、1976 年、プロ入りを果たし、順位戦で C 級 2 組脱出に 4 年かかったが、4 期目から 4 年連続昇級で 1984 年 4 月 1 日に A 級八段となります。そして 1988 年に棋聖戦において、初のタイトルを獲得します。独創的な序盤戦術により作戦勝ちを収めることが多く、「序盤のエジソン」の異名を持っています。また、「居飛車穴熊」で囲いの固さ重視、「飛車先不突矢倉戦法」では展開のスピード重視である現代の序盤戦術の基礎に大いに貢献しました。さらには昔素人将棋とされたウソ矢倉を、後手番での矢倉の斬新な組み方「無理矢理矢倉」としてプロの間で通用する序盤戦術にするなど、現代将棋に与えた影響は大きいものでした。

最後に…

ここまで 15 人の棋士を紹介してまいりましたが、いかがだったでしょうか。プロスポーツの選手は 20 代後半から長くても 40 歳で現役を引退してしまいますが、将棋では 60 歳、70 歳になっても現役で指している棋士もいます。

意外と皆さんの周りにも将棋に詳しい人がいるかもしれません。この機会に皆さんも将棋の世界に入ってみませんか。

最後までご覧いただきありがとうございました。

秀明大学将棋部創部 10 周年記念感謝祭企画

～棋士紹介～

令和 3 年 11 月 13 日(土)、14 日(日)

制作：秀明大学将棋部創部 10 周年記念感謝祭実行委員会